

タイトル「グレート・リセット」(全 186 ページ)

ダボス会議で語られるアフターコロナの世界

出版社：日経ナショナルジオグラフィック

2020 年 10 月 26 日 第 1 版 1 刷



著者：ティエリ・マルレ、 クラウス・シュワブ

クラウス・シュワブ

1938 年、ドイツ、ラーベンスブルグ生まれ。世界経済フォーラムの創設者で現在も会長を務める。1971 年に発表した「機械工学分野の最新企業経営」で、企業は株主だけでなく、すべての利害関係者、すなわちステークホルダーのために、長期的成長と繁栄を実現する使命があると説き、このステークホルダー村長主義を推し進めるために、同年、世界経済フォーラムを設立した。

ティエリ・マルレ

1961 年、フランス、パリ生まれ。個人投資家、グローバル企業のトップ、オピニオンリーダーや政策決定者向けに簡潔な予測分析を提供するオンラインメディア「マンスリー・バロメーター」の創設者であり、現在も代表を務める。世界経済フォーラムとの関わりも深く、グローバルリスクネットワークを設立し、そのプログラムのリーダーを務めるほか、さまざま

まな役職を兼任している。

本書のコアコンテンツ

はじめに

COVID-19 の世界的流行から始まったグローバルな危機。人々は今、近代史上前例のない事態に直面している。

個人のレベルでみると、多くの人にとって今まで当たり前だった生き方が、驚くべき速さで崩れていく。世界を分断する断層、とりわけ、社会の分断や不公正、協調の欠如、グローバルガバナンスやリーダーシップの破綻などが、地表にむき出しとなり、人々は今こそ根本から作り直すときだ、と気づく。新たな世界が姿を現す。その世界がどんなものかを、私たちは想像して、本書で描いていく。

多くの人がこう考えている。いつになったら、ノーマルな生活に戻れるのだろうか。シンプルに答えよう。戻れないのだ。なぜなら、パンデミックを機に、世界の方向性が根本的に大きく変わるからだ。

少なくとも今回のパンデミックは、以前から明らかだった社会の変化をさらに加速する。その変化とはグローバル化の後退、米中のデカップリング、オートメーションの急速な普及、広がる監視社会への懸念、強まる福祉政策への要望、ナショナリズムの高まりと反移民感情、テクノロジーの台頭、企業に求められるネット上のプレゼンスの強化などだ。

1. マクロリセット

1.1 概念の枠組み：現代社会をあらわす三つのキーワード

- ・ 現代社会を形作る三つの力とは、相互依存、スピード、複雑性だ。
- ・ もし、21世紀をたった一語で表せと言われたら、間違いなく「相互依存」になるはずだ。
- ・ 地球という惑星に住む70億の人々はもはや、100隻をはるかに超える船(国家)に別々に暮らしているのではない。全員が同じ一隻の船の193の客室で暮らしているのだ
- ・ 私たち75億の人々がウイルスの蔓延するクルーズ船に押し込められているとしたら、自分の部屋だけは懸命に掃除して何の意味があるのか。
- ・ 驚異的なスピードアップの原因を一つだけ挙げるなら、それは明らかにインターネットである。
- ・ スピードの速さは至るところでみることができる。危機、社会への不満、テクノロジーの発達と適用、地政学的な激変、金融市場、そしてもちろん感染症、何もかもが今や早送り進む。

- ・ 政府は必要に応じて、時間をかけて決定し、実行に移す。更にはさまざまな有権者グループや利害の対立を考慮し、国内の懸念と対外的な配慮を比較し、立法府の承認を得たら、これらすべての決定を実行に移すように官僚機構を動かさなければならない。
- ・ 有権者の側はすぐに政策の結果や改善が現れることを求め、期待通りにならなければあつという間に失望する。
- ・ 政策決定者と国民の時間感覚があまりにもずれているために、パンデミックという状況では調整がとても困難だ。パンデミックが引き起こす衝撃のスピードや痛みは政府のスピードと今後一致することもないし、一致させることもできない。
- ・ ここ何年も WHO や世界経済フォーラムやビル・ゲイツのような個人が次のパンデミックリスクについて世界に警鐘を鳴らしていた。
- ・ その警告は下記のように具体的だった。
 - 1) 経済成長によって人と野生動物が共存せざるを得なくなった人口密集地域にパンデミックが現れる
 - 2) パンデミックは人の移動と交易のためのネットワークを利用し、迅速、かつ静かに広まる
 - 3) 封じ込めをものともせず、多くの国に広まる

1.2 経済のリセット

- ・ 公衆衛生を重んじるものと経済を優先したい者の間で利害の衝突が起きる。
- ・ 過去のパンデミックを分析した論文によると、重大なマクロ経済の後遺症は40年もの長きにわたる可能性があり、その間、実質利益率は大幅に低下する。
- ・ 命を守らないという決断をしても、経済は改善されない、その理由は2つある
 - 1) (供給) 感染が拡大するとより多くの従業員や労働者が感染し、操業できなくなる企業も増える
 - 2) (需要) 消費者の感情は、安全であると確信しない限り、どのような形でも「平常」には戻らない。
- ・ オートメーションは既成の労働環境を一変させる破壊力がある。
- ・ 生産性は大幅に向上し、富が増え、ひいてはそれがモノやサービスの需要を拡大させ、その需要に対応するために新しい仕事生まれる。
- ・ パンデミックに誘発された景気後退は労働者の代替の引き金を引くだろう。
- ・ 環境に優しい経済は、グリーンエネルギーへの移行、エコツーリズムの推進や循環経済の構築など、さまざまな方法で実現可能だ。
- ・ 従来の「資源の投入、生産、廃棄」モデルから「復元可能、再生可能」に設計する方式に切り替え、耐用年数に達した製品を再び使えるようにする。
- ・ 経済成長に批判的なグループが影響力を強め、主流派を形成するようになれば、大

量消費主義が広く浸透している官と民の両方で財政や文化基盤が全面的に見直されることになるだろう。

- ・ ドルに代わる準備通貨は短期的には無い。中国の人民元はいずれ一つの選択肢になるかもしれないが、中国が厳しい資本規制を廃止して、人民元の相場が市場で決定されるようになるまでは無理だし、近い将来には無さそうだ。

1.3 社会的基盤のリセット

- ・ このパンデミックの第一の意義は、社会階層によってリスクの大きさに驚くほどの差があることを浮き彫りにし、社会の不平等というマクロ的な課題を可視化したこと。
- ・ 第二の意義は生活に不可欠で本質的な価値のある仕事に対し、それに見合う報酬が支払われないという根深い乖離が明らかになった。
- ・ 空売り専門のスター・ヘッジファンド・マネージャーが数百万ドルもの年収を得られるのに、看護師はそれと比べれば無にも等しい金額しか得られていない現状を、今後、社会として容認できるだろうか。

1.4 地政学的リセット

- ・ アメリカが好きか嫌いかは別にして、国際舞台からアメリカが徐々に撤退すれば、世界はより不安定な状態になるだろう。
- ・ アメリカが世界の大国として提供してきた国際公共財（シーレーン防衛や国際テロリズムとの戦い）に頼ってきた国は、自分の裏庭は自分の手で管理しなければならない。

1.5 環境のリセット

- ・ 森林破壊で、動物と人間の接近や汚染のリスクを高める要因になっている。
- ・ 人間はこれまで、多様な動物や植物が生息する熱帯雨林やその他の大自然を侵略してきた。そうした動物の体内には、未知のウイルスが数多く潜んでいる。
- ・ パンデミックが収束に向かうとき、世の中がより良い方向に向かう可能性もある。

1.6 テクノロジーのリセット

- ・ 今回のパンデミックは技術革新を今まで以上に加速し、すでに進行しているテクノロジーの変化を促し、すべてのデジタル事業、あるいはあらゆる事業のデジタル分野を「ターボで加速する」。
- ・ 何年も前からテクノロジーは使えたのに規制がネックになっていた各領域が、ロックダウン中にいきなり。ほぼグローバルに緩和された。
- ・ オートメーション化の流れは、何年も前から始まっていたが、変化のスピードが加速していることだ。

2. マイクロリセット（産業と企業）

2.1 ミクロトレンド

- ・ ロックダウンの間、私たちは仕事や教育から社会的交流まで、ほぼすべてを完全にインターネットに依存していた。
- ・ ロックダウン中に広く拡大した遠隔医療やリモートワークのようなトレンドが後退する可能性は低く、パンデミック前の状態に戻ることはまずない。
- ・ 拡大のスピードは息をのむほど早い。2019 年イギリスではビデオによる初診は 1% 未満だった。それがロックダウン下ではリモートで対応した割合が 100% になった。
- ・ グローバルサプライチェーンの特質や脆弱性から、サプライチェーンを短くしようという議論が何年も続いてきた。パンデミックがレジリエンス（回復力）よりも効率を優先するという原則にとどめを刺した。
- ・ 利益を最大にすることや近視眼的な経営が、将来の危機に備えるという公共の目標と一致することはめったにない。
- ・ ステークホルダー資本主義と環境・社会・ガバナンス（ESG）に配慮することがますます重要になった。
- ・ ESG に配慮しなければ事業の大きな価値が破壊され、企業の存続を脅かすことにつながる。

2.2 産業のリセット

- ・ このパンデミックが終息してから数か月あるいは数年の間は、フィジカルディスタンシングを取ったり、仮想スペースに移行したりできる業界よりも、消費者の社会的あるいは個人間の接触を通じて取引をしなければならない業種の方が、流行が収まった後ですら厳しい影響が出るだろう。

3. 個人のリセット

3.1 人間らしさの見直し

- ・ 歴史を振り返ると、ハリケーンや地震といった自然災害は人を団結させるが、パンデミックは逆に人を孤立させる。
- ・ パンデミックはじわじわと長期間続くために、何かにつけ（他者に対して）疑心暗鬼になりやすい。
- ・

3.2 心身の健康

- ・ 多くの心理学者は、2020 年 5 月にある心理学者が発表した「パンデミックはメンタ

ルヘルスに甚大な影響を及ぼした」という説に賛成している。

3.3 優先順位を変える

- ・ 今後数年間に間違いなく、デジタルやバイオテクノロジーの領域で、スタートアップや新しいベンチャー企業が創造性をのびのびと発揮するだろう。
- ・ 同じことが科学や芸術の分野でも起きそうだ。